

ひまわりの声

題字は高森政雄区連会会長

編集・発行 港南区連合町内会長連絡協議会



高森政雄港南区連合
町内会長連絡協議会会長

災害に立ち向かう住民のつながりづくりの大切さを実感

東日本大震災の甚大な被害により、多くの方が犠牲になりましたことにつきまして、心からのご冥福とお見舞いを申し上げます。

港南区におきましても、近年にない揺れを体感し、震度5強を観測した地域もありましたので、港南区連合町内会長連絡協議会では、地域の被害状況や当日の対応などについて各地区連合の会議で話し合っていました。

また、地域防災拠点や民生委員児童委員協議会、学校などでもそれぞれ課題を出し合っていたと伺っております。

その結果、家具の転倒被害や停電による不安、保護者が帰宅困難だったお子さんの対応など、震災時における様々な課題が明らかになりました。

一方そのような状況下でも、地域では自主的な見回りや防犯パトロール、隣近所での高齢者の安否確認などが、自治会町内会を単位として行われるなど、積極的な取り組みも確認されたところでした。

先日、新潟県中越大震災を経験された小千谷市の町内会長を講師に迎えての防災講演会を拝聴しましたが、地域の取り組みの明暗を分けたのは、「日頃から災害を想定した準備をして、災害に立ち向かう住民のつながりづくりだった」ということです。

今年度は、区内175の全自治会町内会が「いっとき避難場所（まずは近くの公園や空き地などで安否を確認）」を決め、効果的な防災訓練を行おうという取り組みを、支援して参ります。

防災の基本は自助（自分の命は自分で守る）・そして共助（隣近所の助け合い）です。我々住民が主体となって、行政とのパートナーシップのもとに、住んで良かった・いつまでも住み続けたい“まち”をつくっていきましょう。

新・地区連合町内会長を紹介します！

今年度就任された、上大岡地区連合町内会長に、会長になった感想や今後の抱負をお聞きしました。

.....

東日本大震災により犠牲となられました方々のご冥福を心よりお祈りいたしますとともに、被災されました皆様にお見舞い申し上げます。

はじめまして、加藤でございます。

さて、上大岡の名は、明治22年当時の久良木郡の村々が合併し、大岡川村大字上大岡と称したのが始まりだと聞いております。

それ以後、約120年が過ぎまして現在は、一部の地区を除き再開発事業も終了し、街並みも順調に推移して参りました。

多くの先輩方の尽力で築き上げた地域の伝統文化

上大岡連合町内会長

加藤 重雄



を守って行きたいと思っております。

また、今回の大震災の被害を参考に、防災対策の見直しについて、関係機関と連携を密に対策案を早急に作成し、地域住民の安全安心を守りたいと思っております。

「上大岡は変わった」と言われるように、微力ではございますが、会長職を精一杯務めさせていただきます。宜しくお願い致します。

3月11日の地震を無駄にしない!

港南区内では、大きな人的被害は報告されなかったものの、停電やガス・エレベータの停止などに加えて、電話が不通になり家族との連絡が取れなかったり、電車の運行停止などで帰宅が困難になった方々のお話を多数伺いました。

そこで、地震発生時の状況とそこからわかった課題について、自治会町内会をはじめ、学校や地域防災拠点、民生委員児童委員協議会等で、それぞれがとった行動等を振り返りました。その結果、概ね自治会町内会を基本単位とする安否の確認や停電時の防犯パトロールなどが、行われたことがわかりました。

今回の地震を契機に、改めて自助・共助の大切さと日頃から災害に立ち向かう準備を進めましょう。

□区民一人ひとりが取り組みます

港南区連会では、区災害対策本部との連名で、ご家庭で活用いただけるように「港南区防災ガイド」を作成しました。このガイドは、175の自治会町内会を通じて、区内全世帯(未加入世帯も含む)に配布されま



義援金へのご協力ありがとうございました



▲林 文子横浜市長 ▲高森政雄区連会長

「東北地方太平洋沖地震」(東日本大震災)の被災に対する災害募金の御協力についてお礼と御報告

平成23年3月11日に発生した、東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)の被災に対する災害募金につきましては、各地区連合町内会及び各自治会町内会の皆様から、多大な御協力をいただき、厚く御礼申し上げます。今回、お預かりした災害募金は総額1,940万円(平成23年4月14日現在)となりました。

4月19日に、横浜市として行って

いる義援金として1,810万円を、林文子市長に高森区連会会長からお渡しました。

また、港南区と20年以上「ひまわり交流事業」を行い、災害時の協力・応援の協定書を締結している、宮城県大崎市(旧三本木町)と大崎市三本木ひまわり交流協会には、4月22日に大貫港南区長が現地に行ってきました。

その際、佐藤三本木総合支所長に100万円、手代木三本木ひまわり交流協会会長に30万円が届けられました。公共施設などの倒壊があった、現地の復興費などに充てられるということです。

港南区連会

いよいよ実践的防災に向けて始動!

す。また、多くの皆さんの目に触れる、自治会町内会の掲示版に、「防災5箇条ポスター」も常設で貼り出されます。

□地域で行われている防災訓練 自治会町内会の防災訓練では、

- ①いっとき避難場所について、住民のみなさんと共有します。
- ※いっとき避難場所とは、自治会町内会単位で決めておき、予めお互いの安否を確認したり避難したりするために、地震発生後に地域住民が

いったん集まる場所(近くの公園や空地等)です。

- ②隣近所で声をかけ合い、高齢者や子どもの安否確認をします。
- ③まずは自分の身を守るため、家具転倒防止や食料の備蓄など、必要な行動を起こすきっかけにしましょう。

地域防災拠点の防災訓練では、

- ①地域防災拠点の開設基準を確認します。
- ②避難者は、「いっとき避難場所」から自治会町内会ごとにとま

まって移動します。

- ③地域防災拠点の運営は、避難者全員で行います。



地域防災拠点では、委員の誰もがリーダーになれることが理想です。



今回は、港南区地域防災拠点連絡協議会の木村妙子会長に、地元の野庭住宅地域での防災活動の経験や今後の抱負を伺いました。

木村会長は、野庭住宅連合自治会の会長に就任以来10数年にわたり、地域防災拠点を中心とする“防災訓練”を実施してきました。

3年前に、区地域防災拠点連絡協議会の会長になったことをきっかけにハード面に重点を置いていた、従来の“訓練内容”を再チェックする必要を感じました。

そのような中で、訓練後に、野庭住宅地域防災拠点の運営委員さん達と意見交換を行いました。その結果、ほとんどの委員さんは「まずは防災拠点に駆け付けること」を重点に考えており、それ以前に、「避難者がどのような行動をすべきか」というソフト面の知識・経験・訓練が不足していることが明白となったのです。

そこで、意見交換の結果を踏まえ、防災拠点を立ち上げるまでの4ステップを掲げました。

- ①第一に、自分自身と家族の生命を守る努力を日常的に実施する。
- ②次に、隣近所の安否を確認する。
- ③自分が担当している周辺住民に、「自宅が安全な状況であれば、自宅に留まるように」と伝達する。
- ④拠点の委員は、誰でもリーダーになる心構えをしておく。

この4つをクリアした後に、防災拠点の立ち上げとなります。

さらに防災拠点内において、委員さんのソフト面の訓練強化に努力した結果、昨年ごろから、災害発生直後から30分間の勝負とされる「初動段階」の対応に、自信を持ち取り組むことが出来るようになった。ということでした。

「突然の災害時、誰が防災拠点に集まれるかは実際には分からないもの。委員の誰もがリーダーになれることが理想。そのためにみんなで努力していきたいと思っています」と笑顔で語ってくれました。

大災害対応の“命綱”は地域社会の親密度と結束力です。

5月14日 補助金説明会&防災講演会

平成23年5月14日午前10時より、区役所会議室において、港南区連会と区役所の共催による、「補助金説明会&防災講演会」が開催されました。受講者が70数名に達する盛会でした。

冒頭の講演会講師は、(株)危機管理教育研究所の国崎信江代表。

テーマは、東日本大震災の現地取

材を踏まえ「日頃から地域社会に融合し、良好な関係を維持することの重要性」を強調するものでした。

マンション階層の高低による、揺れの違いを動画で紹介し、「いざというときの状況を知り、その状況に応じた対策が必要」など、この道15年と言う活動実績を反映する、充実した内容の講演でした。



中越大震災の経験から、地域防災を考える 6月25日 港南区防災講演会

平成23年6月25日港南公会堂で、新潟県中越大震災を経験された風間久司氏(小千谷市本町町内会長・小千谷市自主防災組織連絡協議会長)を講師に「港南区防災講演会」が開催されました。

平成16年10月23日午後5時56分、震度6強~7の地震が発生。その当日に5強の余震が5回、以降5日間にわたって5強クラスの余震が長く続く、過去に例を見ない規模だったそうです。

風間氏は町内会長・防災会長として、町民が自主避難している空き地、車庫、庭先等々を翌日までに3か所に決めて町会避難所を開設し、災害対策本部へ連絡。被害状況と避難者数の報告と同時に正しい情報の把握・指示・必要物品の要望及び救援物資を受取る体制を立ち上げた経過

と、避難所で被災者が少しでも気分よく過ごせるように工夫した、運営・活動のお話をされました。

特に重要な点は、正しい最新情報や救援物資の配布、必要物品の要望などを充たすには、災害対策本部に避難所設営の報告と本部との頻繁な連絡が被災者の不安を和らげること。

また、火災原因になる住宅の電気ブレーカを落とし、ガスの元栓を締めるなど、消防団との連携で二次災害を最小限に抑える努力をした、ということでした。



“交通ルール”と“自分の安全”を守ろう！

5月13日、小坪小学校で「交通安全教室」が開催されました。春の交通安全運動の一環として港南警察署が行ったもので、警察署員が、児童300人に交通ルールの基礎と自転車の正しい乗り方を説明しました。また、自転車に乗る前の点検の仕方を「**ブタはしゃべる※**」という楽しいことばを使って教えると、子どもたちの反応は良く、しっかりと覚えてくれたようでした。

区内では、死亡事故が発生しており、自転車の事故も増えているとのこと。子どもも大人も、十分注意して交通事故にあわないようにしたいものです。

※**ブ**=ブレーキ、**タ**=タイヤ、**は**=反射材・ライト、**しゃ**=車体(ハンドル・サドル・チェーン)、**べる**=ベル



地域に役立つ情報コーナー

港南区役所で聞きました。

東日本大震災の影響により、この夏は全国的に電力の供給不足が見込まれています。

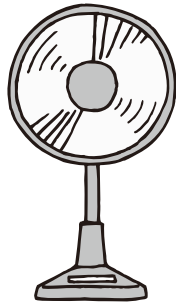
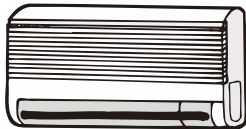
私たちが家庭の中で出来る「節電」について、具体的な内容を、総務課にお聞きしました。

横浜市では、「今年の夏は節電！」を合言葉に、夏(7月～9月)の平日9時～20時における使用電力を15%減らすことを目指して、市民のみなさまと節電に取り組みます。

目標15%カット

■エアコンを使用する場合は、設定温度を2度上げて、できれば扇風機を使いましょう。

健康管理のため、設定温度の上限は28度を目安としてください。エアコンのフィルターを2週間に一回程度掃除すると、節電効果につながります。



■日中、9時～20時の節電が効果的

特に7月～9月の平日は冷房需要が増え、一日の中では14時ごろに、家庭を含む全体の電力需要が最も大きくなります。一日を通じた節電を心がけつつ、特に、9時～20時の節電をお願いします。



【事務局から】

このほか、洗濯機・乾燥機、アイロン、掃除機、電子レンジ、ドライヤーなどの消費電力の高い家電製品の使用を少なくするなど、節電のためのあらゆる取組に御協力をお願いしています。

この夏の節電は、それぞれがやらなくてはならないと意識されていると思いますが、熱中症や脱水症状などを起こさないよう、体調管理にも十分ご注意くださいながら、「暑さも楽しむ夏」を過ごしたいものです。

●問合せ

港南区役所総務課庶務係

(港南区役所34番窓口) 電話847-8304

○次号の「区連会会報 ひまわりの声 No.9」は…

- 節電でも、元気に！創意工夫の祭りと運動會
- われらの地域は、このように守る！「地域防災拠点における取組を紹介」
- 安全安心まちづくり推進協議會啓発キャンペーンの活動を紹介

などです。お楽しみに!!

ひまわりの声では、港南区連合町内会長連絡協議会を「区連会または港南区連会」と記載しています。

編集
後記

■今回の「3・11」東日本大震災を受け、区連会・港南区役所・港南区民有志が見事なまでに機敏な対応を示しました。その紹介の意味も含め本号は「防災の特集」としました。

■本紙および区連会へのご意見・ご要望は区連会事務局までお寄せください。

■区連会会報担当
遠藤良一／中島淑子、編集委員

松田英樹／筒井英子

(横浜市港南区港南中央通10-1
港南区役所地域振興課内
☎847-8391 FAX842-8193)